

ご使用上の注意

施工される人への危害を未然に防止するためと、ご使用になる人や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、この説明書をよくお読み下さい。

⚠ 暖房器具などから発生する熱風、熱気が直接当たらないようにして下さい。
扉の反り、変色などの原因になります。

⊘ 粘着テープでポスターなどを貼らないで下さい。表面が傷む恐れがあります。

⊘ 製品に水、油、殺虫剤などが付着しないようにして下さい。
材質の特性により表面がふくれたり、染み、変色などが発生する恐れがあります。

⊘ 扉の開閉にあたっては、丁番側の隙間に手を置かないで下さい。
指を挟んでケガの恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。

⚠ 丁番などの可動部には手を入れないで下さい。挟まれてケガをする恐れがあります。
特にお子様にはご注意ください。

⚠ 棚受けは確実に奥まで差し込んで下さい。差し込みが不十分な場合、棚板及び収納物が
落下する恐れがあります。

⚠ 本製品の可動棚板一枚当りの最大収納重量は5kg、固定棚板は10kgです。
この重量を超える収納物を載せないで下さい。破損・変形の原因になります。

⊘ 安全のため、破損・変形した扉や棚板などは、使用しないで下さい。

■ 施工上の注意

⚠ 建具の下地材には、必ず乾燥剤（含水率19%以下）を使用し、湿潤材（クリーン材）は使用しない
で下さい。壁内の通気が悪く、内部結露が発生する恐れがある場合は、防水処理をしてから施工して
下さい。

⊘ 組立て後、ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないで下さい。破損の原因になります。

⚠ 建具と柱・間柱・まぐさとの間には必ず隙間を作り、かい木を入れて下さい。かい木には、合板等の
乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないで下さい。建具をコンクリートやモルタル（床面）に直接付け
ないで下さい。やむを得ず直付けする場合は、建具木口と床面の間に必ず防水処理して下さい。

⊘ 養生シートをかぶせる場合は、粘着テープ等を化粧面に貼らないで下さい。はがす際正面が破損す
る恐れがあります。

⊘ 発熱燈付近には取り付けしないで下さい。熱により、部品が変形する恐れがあります。

■ 点検・お手入れについて

1. 日常のお手入れは乾いた柔らかい布または化学雑巾で空拭きして下さい。
ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは中性洗剤を薄めて固く絞った雑巾で
拭き取って下さい。
汚れがひどい場合でも酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤（シンナー・ベン
ジン）などは絶対に使用しないで下さい。

2. 虫害を発見された場合は、直ちに殺虫や防虫処理をして下さい。外部から
入ったことも考えられますので放置すると虫害が拡大する恐れがあります。

3. 本体に抗菌剤、消臭・芳香剤などが付着した場合、表面が変色する恐れが
ありますので、すぐに柔らかい布で拭き取って下さい。（材質：MDF）

4. 稼動棚板（樹脂製）は丸ごと水洗いすることが出来ます。カビの発生及び
変形・変色防止のため水洗い後は必ず陰干しをして完全に乾かしてから取
付けて下さい。

5. 使用中に異常を感じられたり不具合が生じたときは、取付部分などの状況
を確認してください。
ご自身で対処できない場合には、施工業者様にご連絡またはご相談して下
さい。

マークの見方

⚠	この表示の欄は「傷害を負うことが想定されるか、 または物的損害の発生が想定される危害、損害の程度です。」
⊘	この表示の欄は「してはいけない禁止」内容です。
❗	この表示の欄は「必ず実施して頂く」指示内容です。

お客様へのお願い

弊社では、お施主様が製品を安全に正しくご使用頂くための
お願い事項やお手入れ方法などの重要な内容をこの施工説明
書に記載しております。
施工後は、必ずお施主様に手渡して頂きますようお願いいたします。

はじめに

※荷物が到着いたしましたら、直ちにキズの有無を確認してください。
運送中に発生したキズ等がございましたら、運送業者から事故証明をとり、
商品に添えて仕入先へお申し出ください。

※製造上の問題があれば、施工前に仕入先へお申し出ください。

《施工後は当社では責任を負いかねます。》

部品表（組立前に必ずご確認ください。）

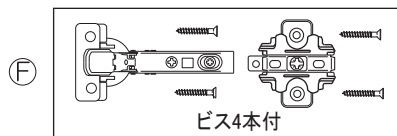
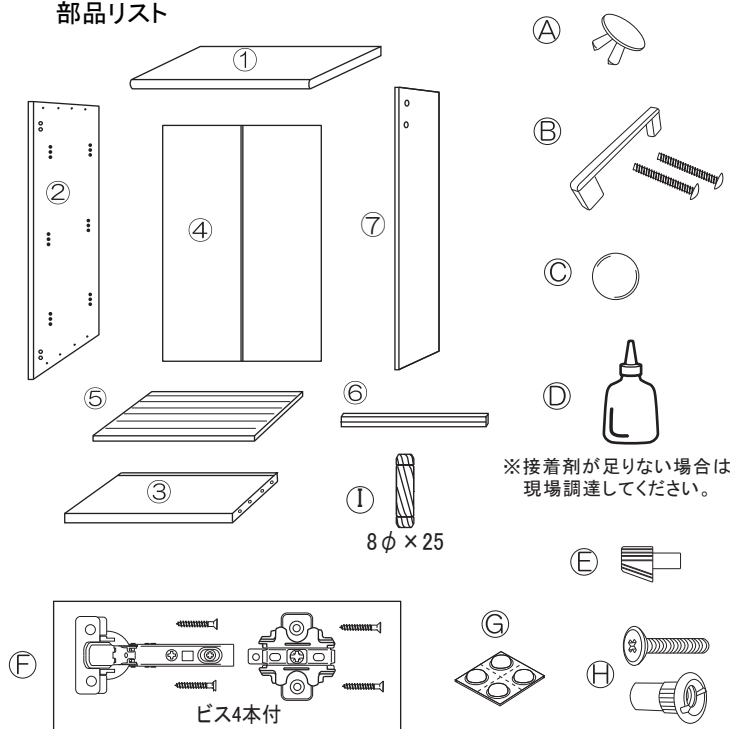
No.	品 名	800タイプ	1205タイプ	1600タイプ
①	天 板	1	1	1
②	側 板（左右共通）	2	4	4
③	地 板	1	2	2
④	背 板	1	2	2
⑤	可 動 棚 板	3	6	6
⑥	背板補強板（片面両面テープ貼）	2	4	4
⑦	扉（左）（別梱包）	1	1	2
	扉（右）（別梱包）	1	1	2
	扉（兼用）（別梱包）		1	

(A)	化粧キャップ	16	24	24
(B)	把 手	2	3	4
(C)	セットキャップ		8	8
(D)	接 着 剤	1	2	2
(E)	棚受けダボ	12	24	24
(F)	ヒンジ・座金セット	4セット	6セット	8セット
(G)	バンポン	2	3	4
(H)	連結ボルト・ナット		4セット	4セット
①	木 ダ ボ	16 φ8×25	32 φ8×25	32 φ8×25

台輪（別売り）	9050 9070 9080	9012 9016
台輪部材（ダボ組込済）	5本	6本
木ダボ（地板連結用ダボのみ同梱）	4本	8本
接着剤	1	1

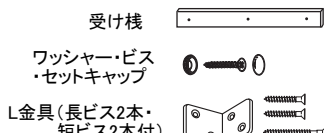
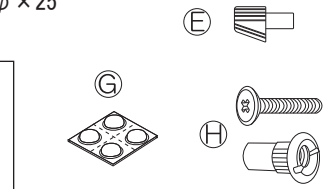
受け棧（別売り）	9050 9070 9080	9012 9016
受け棧	1	1
ワッシャー・ビス・セットキャップ	3セット	4/5セット
L金具（長ビス2本・短ビス2本付）	4	8

部品リスト



※接着剤が足りない場合は
現場調達してください。

8 φ × 25



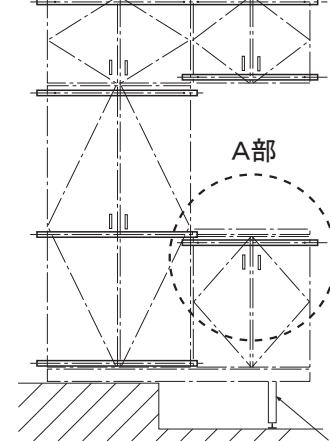
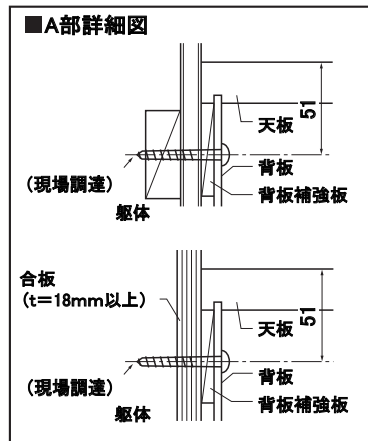
据え付け前の準備

●据え付け場所と上がり框の位置及び、収納セットの左右勝手を確認し、所定の壁面（躯体内）に固定用木棧を設置します（A部詳細図参照）

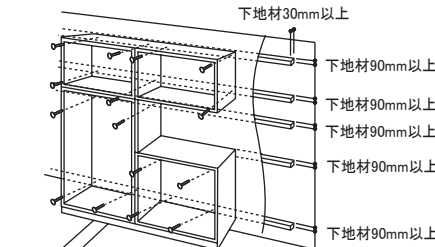
※木棧は厚さ30mm以上（目安）の乾燥材を使用してください。

※合板（t=12mm）のベタ張りでは、つり下げ強度が足りません。必ず厚さ18mm以上のものをご使用ください。

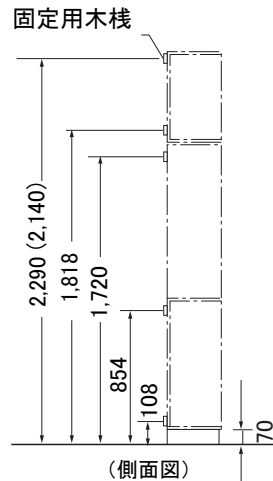
■ A部詳細図



各ユニット毎に背後の壁にビスで固定します。
（ビスは現場調達）



木棧ピッチは木棧の大きさにより
変わります。
※()内の寸法は天袋H:420タイプ
を使用した場合です。



■ 施工手順

1 ●脚を取り付ける場合は組み立て前に地板に
鬼目ナットを打ち込んでください。（別売り）施工手順 7 参照

1・側板に木ダボ、座金を取り付けてください。
（木ダボ取付け前の側板は左右共通です）

2・側板を横に寝かせた状態で地板と側板を木ダボで固定してください。

3・背板を側板、地板の溝に差し込んでください。

4・天板を側板の木ダボと背板に合わせ、取り付けてください。

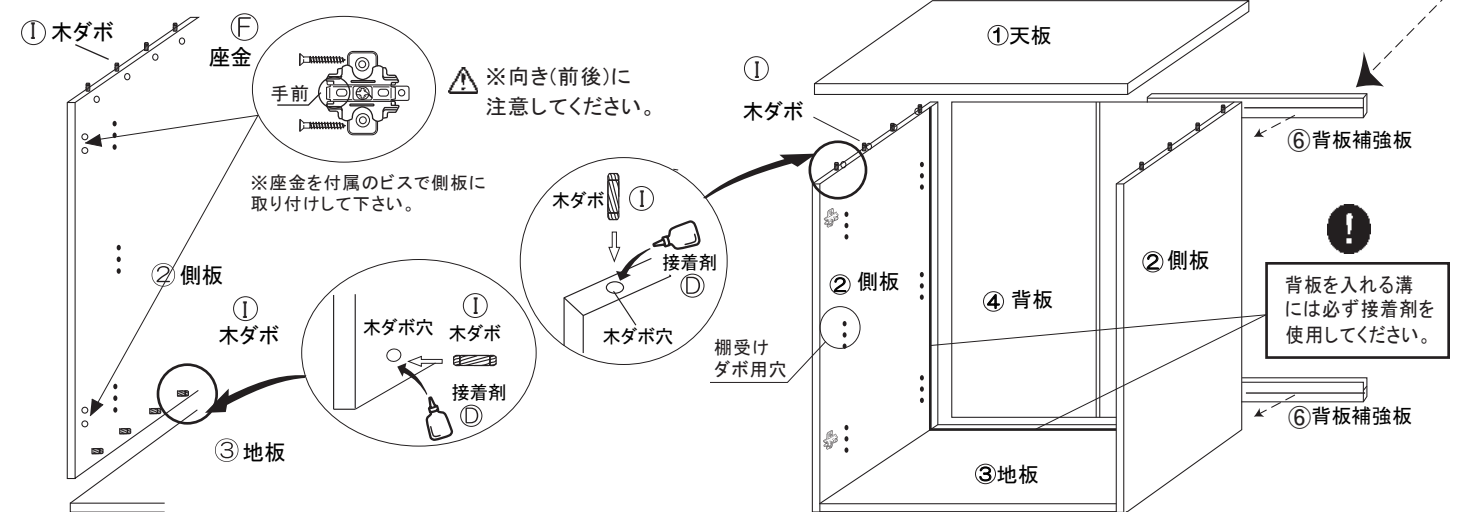
※接着剤が足りない場合は現場調達してください。

❗ 木ダボの組込には必ず接着剤を使用してください。

❗ （溝には必ず接着剤を使用してください。）

⑥ 背板補強板の仮止めについて

背板にゴミ・ホコリが付着する場合はウエス等で取り除いて下さい。
⑥取付時には剥離紙を剥がして仮止めして下さい。



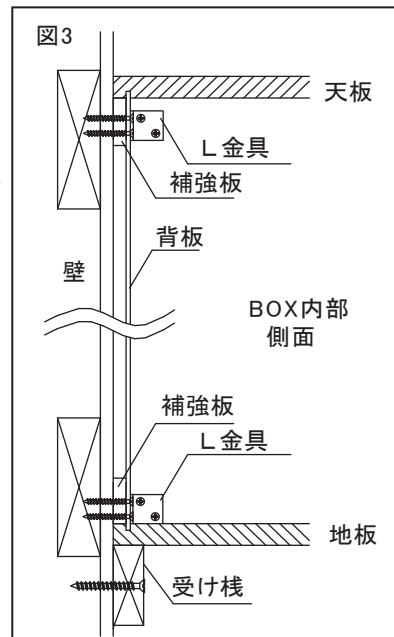
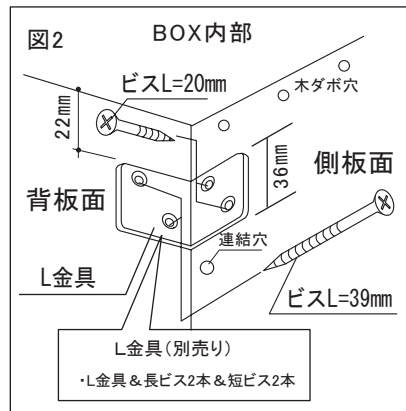
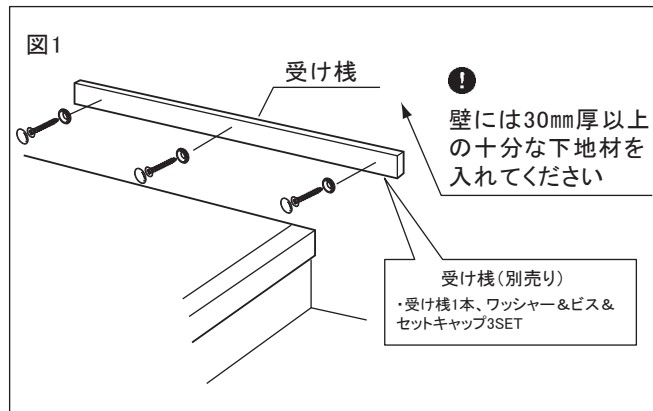
2 フロート施工（吊り施工）する場合 （受け棧セット別売り）

・受け棧を壁に固定します。 図1・2・3参照

・本体BOXを受け棧にのせ、BOX内側から背板・側板を付属のL金具とビスで
壁に固定してください。 図2・3参照

・L金具は、下部はベタ付け、上部は上から22mmの位置に取付してください。図2・3参照

❗ ※側板側には短いビスを背板側には長いビスを使用してください。図2参照



3 据え置き施工する場合（台輪別売り）

・台輪を付属の接着剤で組み立てます。図1

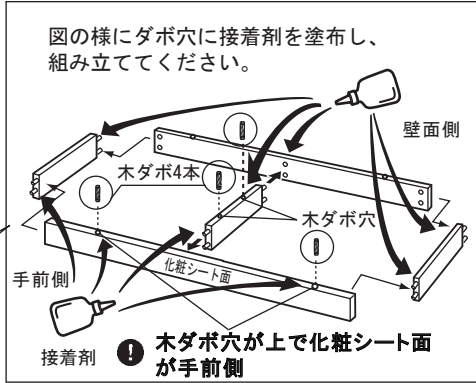
・化粧シートが貼られている長物の部材2本の内、台輪手前側になる方の部材上部の木ダボ穴と中央の部材の木ダボ穴に木ダボを接着剤で取付けます。図1

※注）壁面側には木ダボはつきません。

・組み立てた台輪を壁面に接するよう設置します。図2

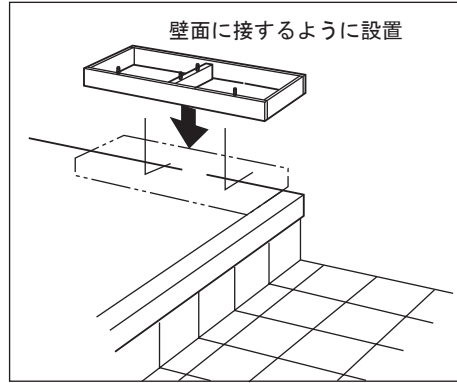
⚠ 組み立てた台輪は必ず接着剤が乾いてから設置してください。

図1



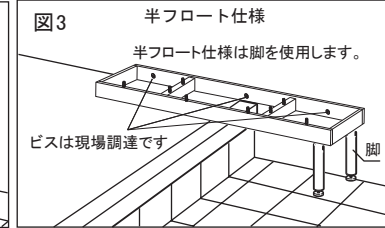
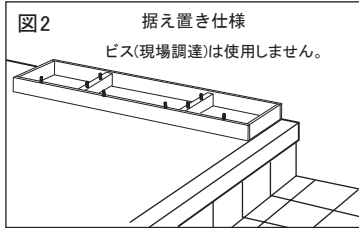
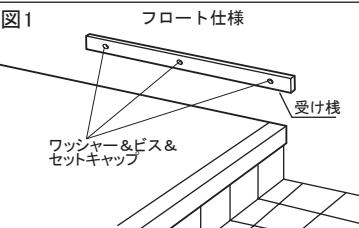
木ダボ穴が上で化粧シート面が手前側

図2



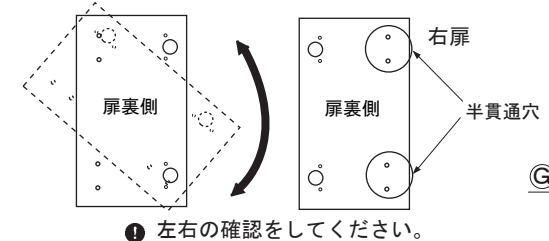
※接着剤が足りない場合は現場調達してください。

施工パターン例

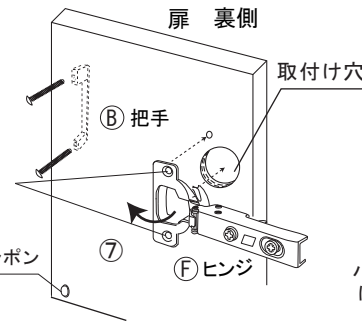


4 扉へヒンジ、バンポン、把手の取付け

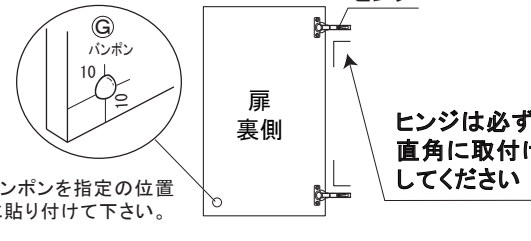
- 1.扉は左右兼用になっていますので右図のように反転し、現場で左右を確認し決めてください。
- 2.左右が決まりましたら把手を取付ける為の上半貫通穴を貫通させ 把手を扉上部へ取付けしてください



- 3.ヒンジ取付け穴にヒンジカップをしっかりとめ込み、付属のビスで、固定してください。

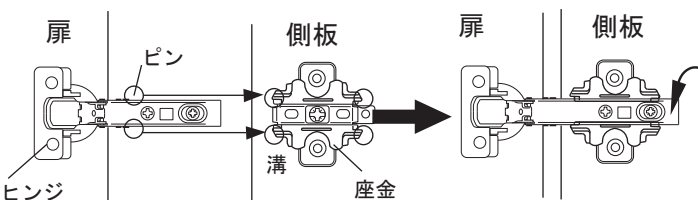


- 4.バンポンは扉の下木口から10mm、木端から10mmの位置に取り付けてください。

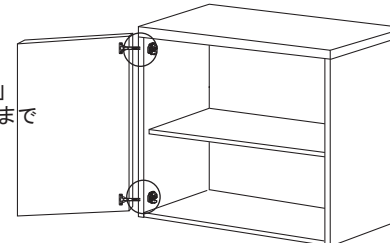


5 扉の取り付け

ヒンジのピンを下図のように座金の溝に入れ、座金の端を「ガチッ」となるまで押込み取付けます。

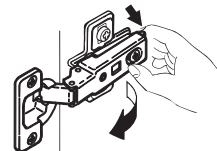


- 扉に取り付けたヒンジを側板の座金に、ガチッと音がするまで押込んでください。



扉の外し方

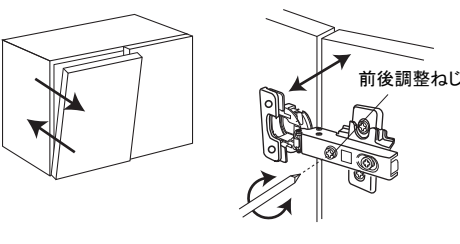
ヒンジ後部のつまみをつまんで手前に引いて外します。



6 扉の建て付け調整（ヒンジによる調整）

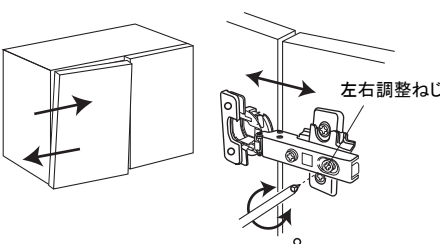
扉の前後調整3mm

ヒンジの前後調整ねじを緩めて前後調整した後、締め直してください。



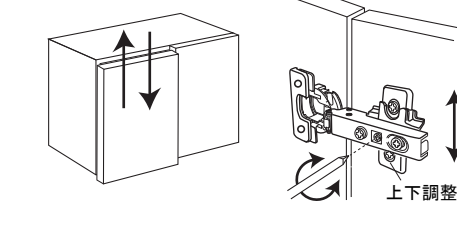
扉の左右調整(3mm)

ヒンジの左右調整ねじを回して左右調整してください。

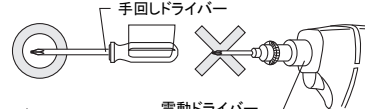


扉の上下調整(3mm)

座金の上下調整ねじをゆるめて調整した後、締め直してください。



※建て付け調整は必ず、手回しドライバー(No.2サイズ)を使用してください。
※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



7 各ユニットの連結と脚・台輪の取付け

- トールボックスとローボックスの連結は、側板の半端通穴をキリ等であけ、連結ボルト、連結ナットで行ってください。
ボルト・ナットの頭はセットキャップで化粧してください。連結しない穴は化粧キャップで塞いでください。

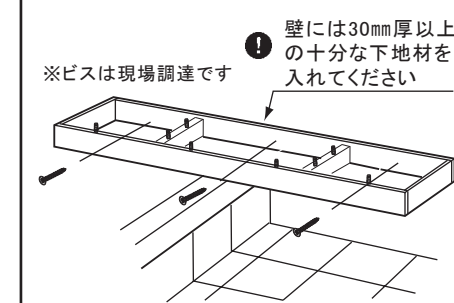
- 天袋とトールボックスの連結には組立ビスを使用してください。

- 台輪をご使用の場合、台輪のタボと本体の地板裏面のダボ穴と連結してください。

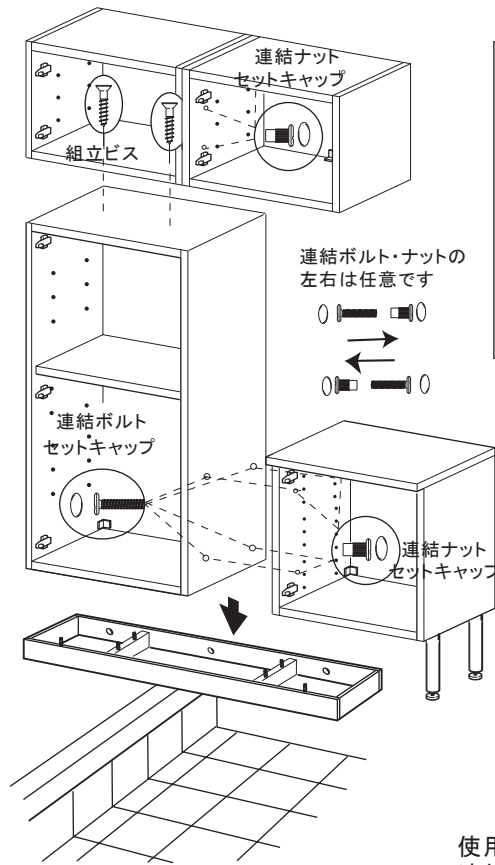
- 棚受けダボを側板に差し込み可動棚板を取付けてください。

※台輪と本体の設置には十分な養生を行ってください。もしとれない場合は浮いている部分にカイモノを入れてください。

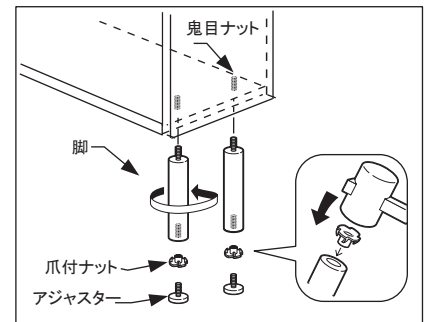
台輪を壁面にビスで固定してください。



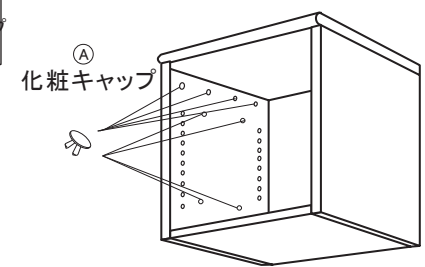
※据え置きの場合はビスで固定しません。



※脚は、オプション品となります。



脚(別売り)
・脚
・爪付ナット
・鬼目ナット
・アジャスター



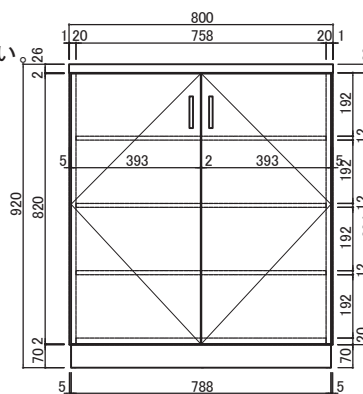
使用しない側板の上部のダボ穴4箇所と連結穴4箇所を化粧キャップで塞いでください。

寸法図

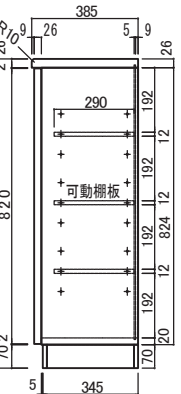
各部品類は確実に取り付けてください。もし緩み等がありますとガタつきの原因になります。
特に扉の取り付けには注意してください。

正面図

800タイプ



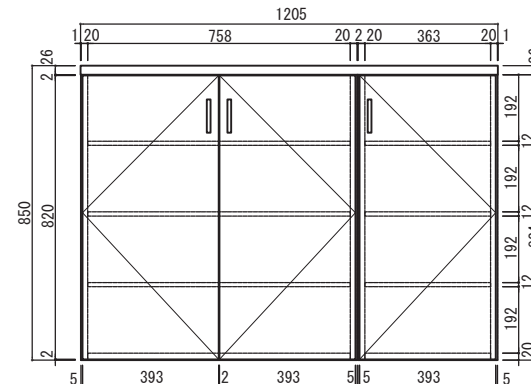
側面図



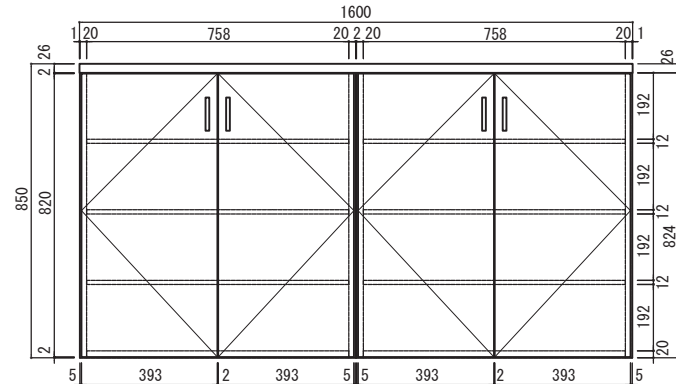
※台輪寸法含む

1205タイプ

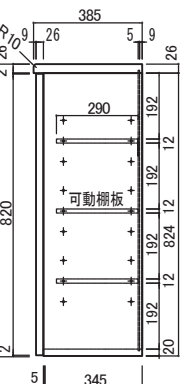
正面図



1600タイプ



側面図



※台輪寸法含まない

※台輪と受け棧の高さは70mmです。